



(公財)福岡よかトピア国際交流財団 中期経営方針・中間評価(概要)

1. はじめに

(公財)福岡よかトピア国際交流財団は、令和3年3月に策定した「中期経営方針」(実施期間 令和3年4月～令和8年3月の5年間)に基づき、事業面等の順次取り組みを進めているところである。

同方針において、3年目にあたる令和5年度を同方針の中間評価の時期と定めており、そのため、「財団が目指す姿を実現するための取組」、「目指す姿を支える基盤づくり」の進捗状況を示し、本方針が目指す指標・数値目標の現時点での状況について、中間評価を行うものである。

2. 対象期間

令和3年4月～令和5年3月

3. 進捗・評価等の考え方

以下の項目について、進捗状況に基づき段階評価を行う。

(1)「財団が目指す姿を実現するための取組」、「目指す姿を支える基盤づくり」について

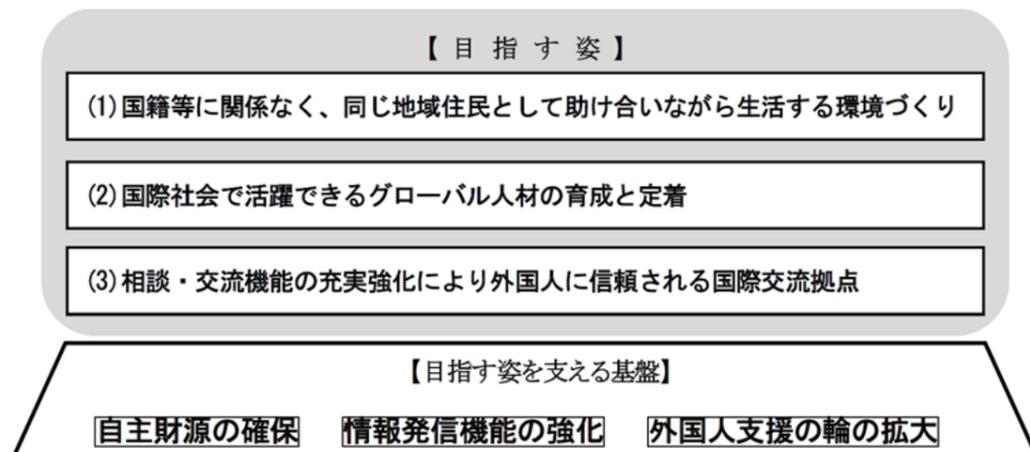
	評価基準の考え方
概ね順調	中期経営方針作成時と比べ、順調に事業を実施(前年度に比し数値増や事業内容等が前進)
変わらない	中期経営方針作成時と比べ、事業に変更無(前年度と比し数値や事業内容等に特に変更無)
やや遅れている	中期経営方針作成時と比べ、事業が後退気味(前年と比し数値減や事業内容等が後退)

(2)「目指す指標項目と数値目標の達成状況」

	評価基準の考え方
A 目標値に向け概ね順調に進んでいる	中期経営方針作成時と比べ、指標が上向き
B 現状維持もしくは、ほぼ同じ	中期経営方針作成時と比べ、指標にほぼ変更無
C 初期値よりも減少傾向	中期経営方針作成時と比べ、指標が下降
D 測定不可	現在、測定を開始したばかりで比較不可

4. 進捗状況

(1) 財団の目指す姿と目指す姿を支える基盤(中期経営方針より)



(2)「財団が目指す姿を実現するための取組」の進捗状況 → 概ね順調

国籍等に関係なく、同じ地域住民として助け合いながら生活する環境づくり
地域コミュニティにおける外国人住民との交流支援/日本語教育の推進
子どもや子育て支援分野における取組みの構築/オンライン化の積極的な活用促進
国際社会で活躍できるグローバル人材の育成と定着
奨学金制度の充実と寄付金拡大に向けた取組み
留学生の就職を支援する様々な事業やイベントの開催
相談・交流機能の充実強化により外国人に信頼される国際交流拠点
外国人総合相談支援センターの充実/留学生宿舎の方向性検討
新規事業・イベントの企画、開催や既存事業の見直し等による交流機能の強化

(3)「目指す姿を支える基盤づくり」の進捗状況 → 概ね順調

公的機能の充実・強化のための自主財源の確保
「留学生から学ぶ外国語教室」の改善/基本財産運用の見直し
寄付金拡大による財団奨学生制度の充実/新たな財源の確保
情報発信機能の強化
様々なSNSを活用した財団の認知度向上/災害時の外国人支援体制の確立
新型コロナウイルス感染症などに関する的確な情報発信
外国人支援の輪の拡大
災害時支援や交流支援ボランティア、チューター制度などのボランティア制度拡大
福岡外国人学生支援の会やふくネット加盟団体などによるネットワークの輪の拡大
寄付金拡大による財団奨学生制度の充実/事業やイベントなどにかかる申込などのオンライン化推進

5. 目指す指標項目と数値目標の状況

社会情勢の変化に応じた事業の推進

指標項目	初期値 (R元年度)	目標値 (R7年度)	R4年度	評価
オンライン化の積極的な活用促進	—	5	10	A
外国人親子が集まる場や機会の創出	—	5	3	D

外国人に信頼される国際交流拠点

指標項目	初期値 (R元年度)	目標値 (R7年度)	R4年度	評価	
外国人住民による財団の認知度(福岡市外国籍市民アンケート)	23% (H30年度)	50%以上 (R6年度)	31.3% (R3年度)	A	
情報発信機能の強化	フェイスブックのフォロー数	2,253人 (R2年度)	5,000人	2,644人	B
	財団からボランティアへの情報発信件数	—	1,000件	594件	D
外国人支援の輪の拡大	外国人支援ボランティアバンクの登録者数	117人	450人	281人	A

新たな財源確保

指標項目	初期値 (R元年度)	目標値 (R7年度)	R4年度	評価	
奨学金制度の充実	企業や団体、個人からの寄付金額	約520万円	約650万円	約834万円	A